

# 旧石器ハテナ館だより せんとうき 尖頭器



尖頭器とは、主に旧石器時代に使われた狩猟具です。

旧石器ハテナ館  
(史跡田名向原遺跡  
旧石器時代学習館)  
神奈川県相模原市中央区  
田名塩田 3-23-11  
TEL.042-777-6371  
平成 28 年 12 月 15 日  
【第 33 号】

バスツアー 平成 28 年 12 月 3 日 (土) 実施

釈迦堂遺跡・山梨県立考古博物館・金生遺跡

## 山梨の縄文文化に触れる旅

周辺地域から相模原を見つめ直すことを目的に、縄文時代の「顔」をテーマに選んだ今回のバスツアーは、皆さんの関心も高く、申込を開始して4日目には定員に達しました。当日はお天気にも恵まれ、冬晴れの暖かな日差しの中、39名の参加者と7名のスタッフの計46名で山梨の縄文文化を代表する遺跡や施設を巡る旅に出発しました。

最初に訪れたのは「釈迦堂遺跡博物館」です。高台にある博物館からは京戸川の扇状地が見渡せました。展示室では一瀬学芸員が土偶や土器について解説をして下さいました。可愛らしい土偶の顔が並んだケースの前で参加者の皆さんは歓声を上げ、いつまでも夢中で眺めていました。釈迦堂遺跡からは、実に1,116個体の土偶が見つかっています。

今回は、特別に収蔵庫にも入らせていただき、重要文化財指定を受けた土器類を間近に眺めることが出来ました。棚を埋め尽くす土器の多さにまず圧倒されましたが、驚いたのは何と言ってもその大きさです。山梨では、縄文時代、良質の粘土が沢山取れたことが背景にあるようです。



続く「山梨県立考古博物館」では、吉岡学芸員が解説をして下さいました。縄文時代のコーナーには、大きな曾利式土器や山梨を代表する天神遺跡、酒呑場遺跡、中谷遺跡などから出土した土偶などがずらりと並び、圧巻でした。中には、一の沢遺跡土偶など、重要文化財に指定されている物もあります。大きな土器の中には埋葬に使われていたものもあり、その様子が再現されていました。

敷地内には、他に銚子塚古墳や丸山塚古墳などの古墳があります。

双葉PAで昼休憩を取り、最後は配石遺構で有名な「金生遺跡」を訪ねました。解説は村松学芸員です。参加者は、太陽の光が弱まる冬至に夕日に向かって祈りを捧げたという縄文の人たちに思いを馳せていました。「北杜市考古資料館」では、中空土偶や御所前遺跡の顔面把手付深鉢(「出産文土器」)などを見ることが出来ました。把手の「顔」は、V字の眉、アーモンド形の目、豚鼻、開いた口、耳輪の穴など相模原から出土した物と同じ特徴を持ち、両地域の関係の深さを改めて知ることが出来ました。

山梨から相模原を見つめ直した今回のバスツアーは、相模原への理解が深まっただけでなく、さらなる関心が湧くような素敵な旅になりました。



「顔」の関連イベントご紹介

・平成 29 年 1 月 21 日(土)~3 月 20 日(祝) ミニ展示「かお・カオ・Kao 顔がいっぱい！」  
・ ” 3 月 11 日(土)講演会 中村耕作氏(国学院栃木短大)「(仮)縄文土器にみる顔表現」

秋の文化財ウォーキング

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 実施

# 田名の文化財探訪

～段丘と湧水の街をめぐる～

生憎の雨となりましたが、18名の参加がありました。午前9時にスタートし、最初の目的地「大杉の池」では、そこが八瀬川の源流で、江戸期にあった明覚寺が、明治5年に覚明学舎(田名学校)となったことなどの説明がありました。段々雨脚は強くなって行きましたが、解説時間を短縮するなど工夫し、陽石・陰石、大山不動の道標、「蚕影山神社」、「烏山藩制札場跡」と巡って行きました。県道の歩道橋から相模川、圏央道、三栗山を望み、「田名坂上遺跡」に到着すると、出土した「三彩小壺」が写真と共に紹介されました。小さいながら黄緑色が目に鮮やかな存在感のある壺です。竹林が鬱蒼とした滝坂を下ると、程なく宗祐寺の仁王門が目に入りました。左右に金剛力士像が安置された立派な門です。墓地には江成久兵衛の墓もあります。久兵衛は、烏山用水が洪水で流れた後、私財を投じて復旧したことで知られています。最後の「田名八幡宮」では的祭についての説明があり、「じんじ石」「ばんば石」を見学しつつ烏山用水堀を見て、水郷田名バス停へと向かいました。相模原の3つの段丘の中の陽原段丘を下って相模川に至るというコースは参加者にも好評だったようです。



雨の中、参加者は熱心に耳を傾けていました



宗祐寺仁王門前での解説

今回の探訪の主催者である「田名向原遺跡案内・普及実行委員会」の会長 嶋原眞澄さんは、「解説もまともに聞こえない程のどしゃぶりにはびっくりしましたが、雨も悪いことばかりではありません。皆さん、気が引き締まり、解説をよく聞いて下さいました。移動も順調に進みました。何より嬉しかったのは、もう一度、このコースを歩いてみたい、との意見を耳にしたことです。雨のために一部をカットし、十分な説明が出来なかったことは残念でしたが、こんなに印象に残る探訪も滅多にないことと思います」と語っていました。

## 講演会

平成 28 年 11 月 12 日 (土) 実施

えかがみがた

## 縄文時代の柄鏡形(敷石)住居址

講師 昭和女子大学教授 山本暉久先生

縄文時代に見られる石の文化は、祭祀と関わるものとされてきました。柄鏡形住居も、その特異な姿から祭祀と結びつけて考えられがちでしたが、山本先生は、柄鏡形住居が相模原の縄文時代の遺構でごく一般的に見られることに着目し、それが当時流行した住居の姿であったと位置づけました。敷石住居の成立は、縄文時代中期後半期の竪穴住居の形態・構造上の変化過程の中にとらえられるのであり、別系統で突如出現したとはみなしがたい、という視点は斬新で、先生が発掘に携わった豊富な調査データからも非常に説得力がありました。



穏やかな口調で熱く語りかける山本先生